

3月19日

7時30分集合・出発（新津IC～郡山IC経由～利府塩釜IC）

13時00分頃到着

到着後荷物を運ぶ間もなく、保険薬局で調剤業務を手伝った。3/18（金）は700件、到着当日の3/19（土）は385件、3/20（日）は170件の調剤を行っていた。（通常は平日500件、土曜日200件）

スタッフは土日・休日も休まず働いている方もいるため今後も支援は必要と考えられた。

*保険薬局は震災翌日の12日から業務を行い、12日・13日は病院のトリアージブースでの薬品管理、調剤等を手伝っていた。14日からは病院の緑・黄ブースからの院外処方箋の対応、緊急措置としてお薬手帳や薬剤情報提供書等により処方箋がなくても10日分の定期処方を調剤した。また、近隣の薬局が閉まっているため近医の処方箋もいつもよりたくさん来ていた。

患者さんは2時間待ちで薬をもらって帰る方も多かった。普段は待たせると苦情を言われるが、今回は2時間待ってもお薬もらえて良かったとほっとした顔で帰る患者さんが多かったと言っていた。震災時にまわりの薬局が営業しない中で業務できる薬局・薬剤師の存在は大きいと思った。

3月20日

8時30分 朝礼（ボランティアを含むすべてのスタッフが参加）

9時～13時 病院黄色ブースで業務

*病院では救急室をトリアージで赤の患者、1階のリハビリフロアを黄の患者（仮設ベッド30床位あり）、一般外来を緑（軽傷と定期処方切れ患者対応）の患者に分けて外来業務を行っていた。薬剤師は黄のフロアで注射や内服薬の管理（支援医師が業務を行うため、採用薬や支援で運ばれてきた薬で該当する薬剤は何かを選択する）、院外処方箋のチェック（用法や日数の記載漏れ）、医師からのコンサルト（用法・用量、薬剤選択の質問について答える）業務を行っていた。メッセージャー・事務も常に3名配置され、壁にはベッドの図が貼ってあり、付箋で患者名が表示され、どこにどの患者がいるか一目でわかる状態で有った。（黄色ブースでは主に支援の医師・看護師スタッフで業務を行っていた。）

13時～18時30分 病院で注射セット、注射カートの交換

3月21日

8時30分 朝礼

9時～10時 避難所見回りのオリエンテーションとチーム内でのオリエンテーション

10時～13時 避難所回り、帰院後報告書と感想記載

避難所回りは医師2名・看護師2名・薬剤師1名・事務1名のチームで現地に向かい、現地では医師・看護師1名ずつで診察を行った。医師の1名はチームリーダーを担当、看護師1名が物品管理責任者、事務は避難所責任者より状況の聞き取りを行った。

薬剤師は2つにわかれたチームを行き来しながら、医師への処方設計支援、定期内服薬の確認（ジェネリックの場合医師は何を内服しているかわからない）、薬の調剤や説明等を行った。

避難所には保健師が配置されていたため、医師の診察が必要な患者がすぐにわかり良かった。

避難所は日中若い人は家に帰り片付け等を行うため、高齢者や具合の悪い方のみ残っていた。

大きい避難所は県立や日赤病院が入っているため、坂総合病院はそのような支援が行き届かない近隣の避難所を回っている。（300名程度が避難されている避難所がたくさんあり、毎日は回りきれない）

インフルエンザを疑われる患者がいたため、タミフルを処方し、個室隔離とした。

腎障害患者で下肢の浮腫が有る患者がいたが、様子を見ることとなった。

薬やお薬手帳、薬剤情報提供書などを津波で流されたため、定期内服薬がわからない患者がいた。

一包調剤のため何を内服しているのかわからない患者が数名いた。

感冒、中耳炎、膝の痛み、高血圧で感冒薬・抗生剤・湿布・アムロジピンが多く処方された。避難所はストレスとカップラーメン等の食生活のため血圧の高い患者がたくさんいた。

*現地での生活についてと不足物品

電気は使えます。

保険薬局トイレは3月20日から使えるようになりました。(水が出るようになりました)

病院トイレは震災直後から使えたようです。(ライフラインも優先的に復旧してもらった)

保険薬局のガスはプロパンのため、残っている間は使えます。

電気ポット有るためお湯は沸かせます。

食糧は基本的に病院からの支給はもらえますが、滞在する自分の分は持っていく必要があります。(できれば食量は足りていないので、スタッフに分けられるぐらいもってけると良い)

お茶ペットボトル、パン、カップラーメン、ビールなど全く手に入らない。持っていくと喜ばれます。(そろそろビール飲みたいと言っていた)

ガソリンがないため、歩いて1時間30分は歩きで通勤圏内と言っていた。

お風呂は3日間入れなかったが、ポットのお湯を使いタオルで体を拭きました。

睡眠は段ボール+マットの上に寝袋で寝ます。(良いマットか毛布を敷けば薄めの寝袋でも良いかもしれません。)

電気があり暖房が使用可能のため)

保険薬局は薬袋・トナー・分包紙が不足していました(支援する場合はメーカー・機種に注意)

【感想】

病院ではトリアージの黄ブースに薬剤師1名(夜勤も含む)配置しており、保険薬局も休日返上でスタッフが働いている。

現地に支援に入ることによって相当現地スタッフの負担は軽くなると考えられる。

病院では注射セット・保険薬局では調剤・監査・投薬と通常の業務を行う薬剤師が足りていない。その業務を支援薬剤師が行うことで、現地スタッフが休養できると思われる。また、避難所回りを支援薬剤師が行ったが、今後は現地に詳しい現地薬剤師が行うことで、きめ細かい訪問対応が可能と考えられる。

ジェネリック医薬品で一般名以外の薬剤を調べるのが大変だった。(一般名のジェネリックが良い)